

みかい

安住院便り
(第43号)

令和元年8月1日発行

〒703-8236

岡山市中区国富3丁目1-29

住職 生駒琢一

TEL(086)272-2320 FAX(086)273-9327

令和の時代になつて

新しい元号が令和（れいわ）に変わり、早三ヶ月が経過しました。平成が三十年続き、その響きに慣れていました。新たな時代という事で、改まった気持ちで仕事に取り込むのも良いことです。

毎日の生活が変わる訳ではないのですが、平和な時代が続くことを願うのは、皆様も同じだと思います。

時代も西暦で考えると、数字の連続で、何か味気ない気がします。しかし、日本特有の元号と言う呼び名を使うことで、時代時代の区別ができるのです。

特に日本の歴史に詳しい方には、その元号の時代に何が起こったのかという事に、とても興味があるのです。

当院が創建されたのは（天平勝宝）、本堂が再建されたのは（慶長）、多宝塔は（寛延）で、元号で表すと、特別の思いがします。



将来、平成時代はこうで、令和時代はこうだったと言ってもらえるような出来事が、安住院の歴史に刻まれることを望んでいます。

ここ数年は、世界情勢も不安定になり、大きな災害も増えています。特に国内でも未曾有の被害をもたらす災害が重なり、昨年は岡山県南部でも集中豪雨により多くの河川が氾濫し被災された方が多くおられました。「晴れの国・岡山」も例外では無く災害は襲って来るのだと実感し、どうすれば良いのか不安になります。

現代は、様々な情報が溢れんばかりあり、伝達方法も多様化しています。しかし、受け取る側の私たちが、それらの情報をどう整理し活用するかが大事なのです。備えだけでは不十分で、いざと言うときの対策は、事前の訓練が重要であると、識者の多くは記しています。実際にはなかなか難しい問題です。それでも、様々なことを考え、みんなと話し合い、最善を尽くす努力は必要です。

仏様やお大師様が、どこかで見守っていて下さると信じて、皆様と一緒に当院も護持出来ればとの思いを新たにしました。

合掌

副住職夫婦に第二子誕生

今年六月、次男が誕生しました。長男は「おとうと」ができて、とても喜んでいました。



本堂前に手水舎新造

最近、朱印を求めて参拝される方も増えています。そのお参りの雰囲気作りも大事なことでと考え、本堂前の境内に、手水舎を建造いたしました。

今まで、白門（鐘楼門）を入った所に手水の石はありましたが、新らしく銅板葺の屋根をつけた手水舎を造り、立派な龍口も設けました。

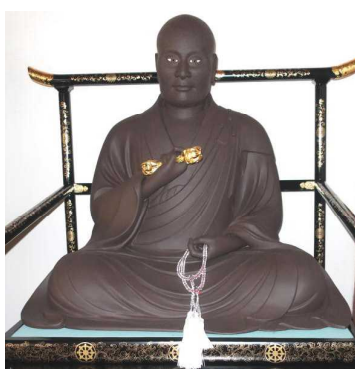
本堂にお参りする作法として、清水で手と口を注ぐことは昔から言われていて、各地の神社仏閣で行われていることです。

仁王門修復工事に向けて更なる努力をするつもりです。で、皆様のご協力を宜しくお願い致します。

弘法大師尊像修復

「みかい」正月号で紹介しました、当院本堂に座す弘法大師尊像修復が無事終わり、昨年末に綺麗なお姿になりました。

法事等で当院にお参りの際には是非、拜んで下さるようお願い致します。



尾道・因島参拝

今年春、四月十日に尾道の古刹寺院二ヶ寺と、因島の瀬戸内観音霊場寺院三ヶ寺をお参りしました。

平成最後の寒波と言われ、雨も降る寒い一日でしたが、皆さん元気に足を運びました。しかし、逆に桜の花が満開のまままで散らずに残り、どこでも花見ができる素晴らしさで、感動を覚えました。

尾道の浄土寺は、国宝や重要文化財で有名ですが、その副住職に、本堂内やその他の建物・庭園などの由緒を丁寧に説明して頂き、その雰囲気をも十分に味わいました。

千光寺では、満開の桜の公園を抜け、岩山まで少し歩きましたが、気持ちの良い眺めが待っていました。

その後、久しぶりの瀬戸内霊場、向島・因島の寺院をお参りし、新鮮な気持ちで霊場巡りが出来ました。

有名な寺院ですが、まだまだ知らないことも多いと感じた団参になりました。
次回の予定は、十月二十二日です。

